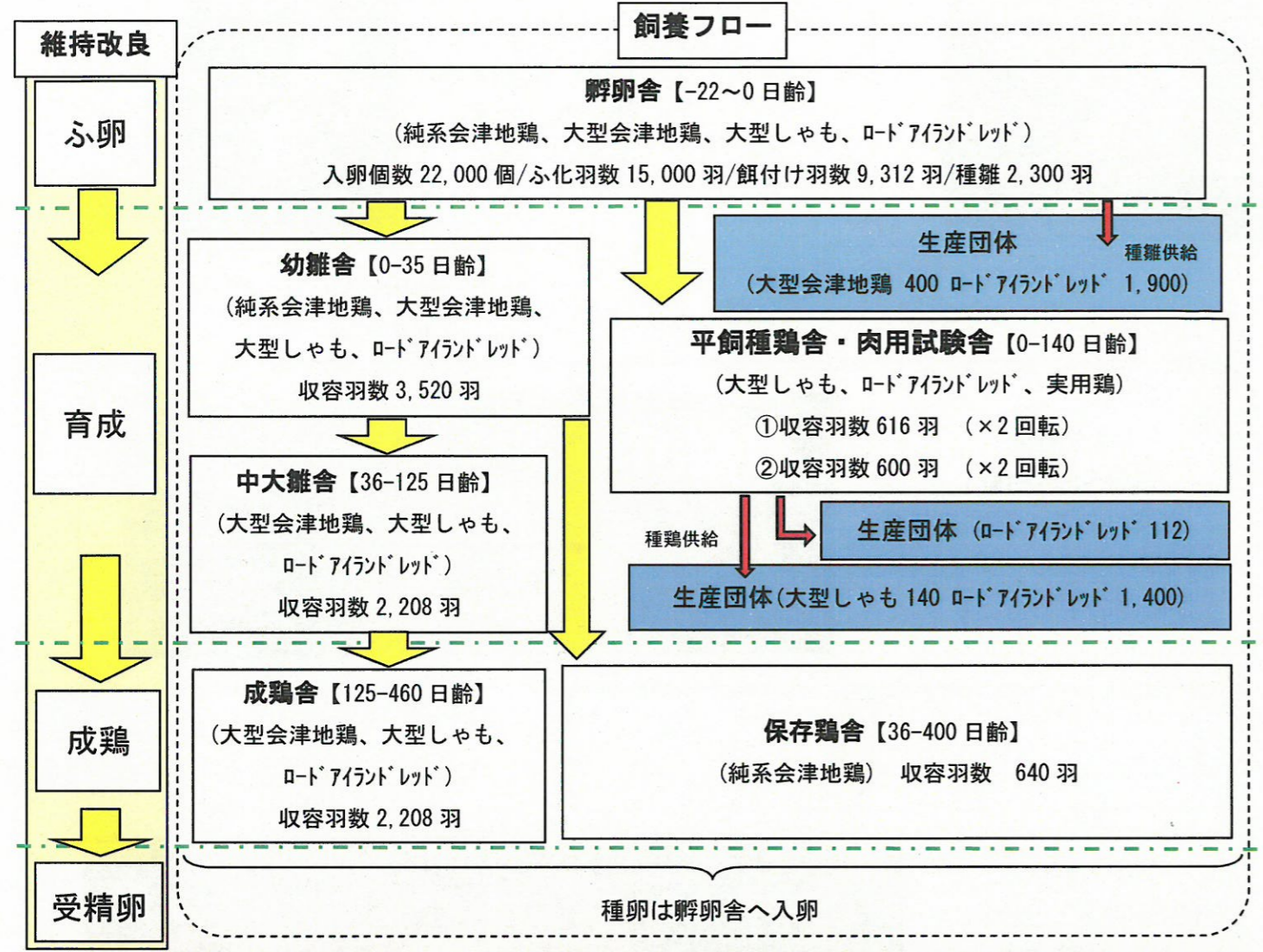


地鶏の改良及び種鶏供給の流れ



**【会津地鶏】(在来種由来血液率)**  
 大型会津地鶏♂ (50%) 《純系会津地鶏♂ (100%)  
 ×ホワイトロック♀ (0%)》  
 会津地鶏 (75%)  
 ロード・アイランド・レッド♀ (100%)

**【川俣シャモ(ふくしま赤しゃも)】(在来種由来血液率)**  
 大型シャモ♂ (50%) 《レッドコーニッシュ♂ (0%)  
 ×シャモ♀ (100%)》  
 川俣シャモ  
 (ふくしま赤しゃも) (75%)  
 ロード・アイランド・レッド♀ (100%)

**【本宮烏骨鶏】(在来種由来血液率) 烏骨鶏♂ (100%) ×ロード・アイランド・レッド♀ (100%) →本宮烏骨鶏 (100%)**

福島県農業総合センター畜産研究所

「種鶏改良増殖施設」



**【整備概要】**  
 (1) 事業期間 平成 25~27 年度の 3 ヶ年  
 (2) 整備地 畜産研究所敷地内  
 (3) 規模 造成面積 17,500 m<sup>2</sup>  
 建築面積 3,173.59 m<sup>2</sup>  
 (鶏舎 7 棟、付帯施設ほか)  
 (延べ床面積 3,229.70 m<sup>2</sup>)  
 (4) 設計思想 徹底した防疫対策  
 環境負荷の低減  
 省力化

**【沿革及び整備経過】**  
 ○昭和 11 年 郡山市神明町に福島県種鶏場設立  
 ○昭和 40 年 郡山市富田町に福島県養鶏試験場  
 新設移転  
 ○平成 2 年 「会津地鶏」開発  
 ○平成 8 年 「ふくしま赤しゃも」開発  
 ○平成 18 年 福島県農業総合センター畜産研究所  
 養鶏分場に改称  
 ○平成 23 年 東日本大震災により施設被災  
 ○平成 25 年 造成実施設計 建築基本設計  
 ○平成 26 年 造成工事 建築実施設計  
 ○平成 27 年 建築工事 関連工事  
 ○平成 28 年 種鶏改良増殖施設新設移転  
 福島県農業総合センター畜産研究所  
 養鶏科に改称


福島県

福島県農業総合センター畜産研究所

〒960-2156 福島県福島市荒井字地蔵原甲 18 番地 Tel: 024-593-1221 (代表)

# おもな鶏舎・施設の機能


⑧ 孵卵舎  
【-22~0日齢】  
鶏の卵は21日間で  
孵化します。  
雌雄の鑑別もここで  
行います。



⑤ 保存鶏舎  
【36~400日齢】  
純系会津地鶏  
を飼養します。



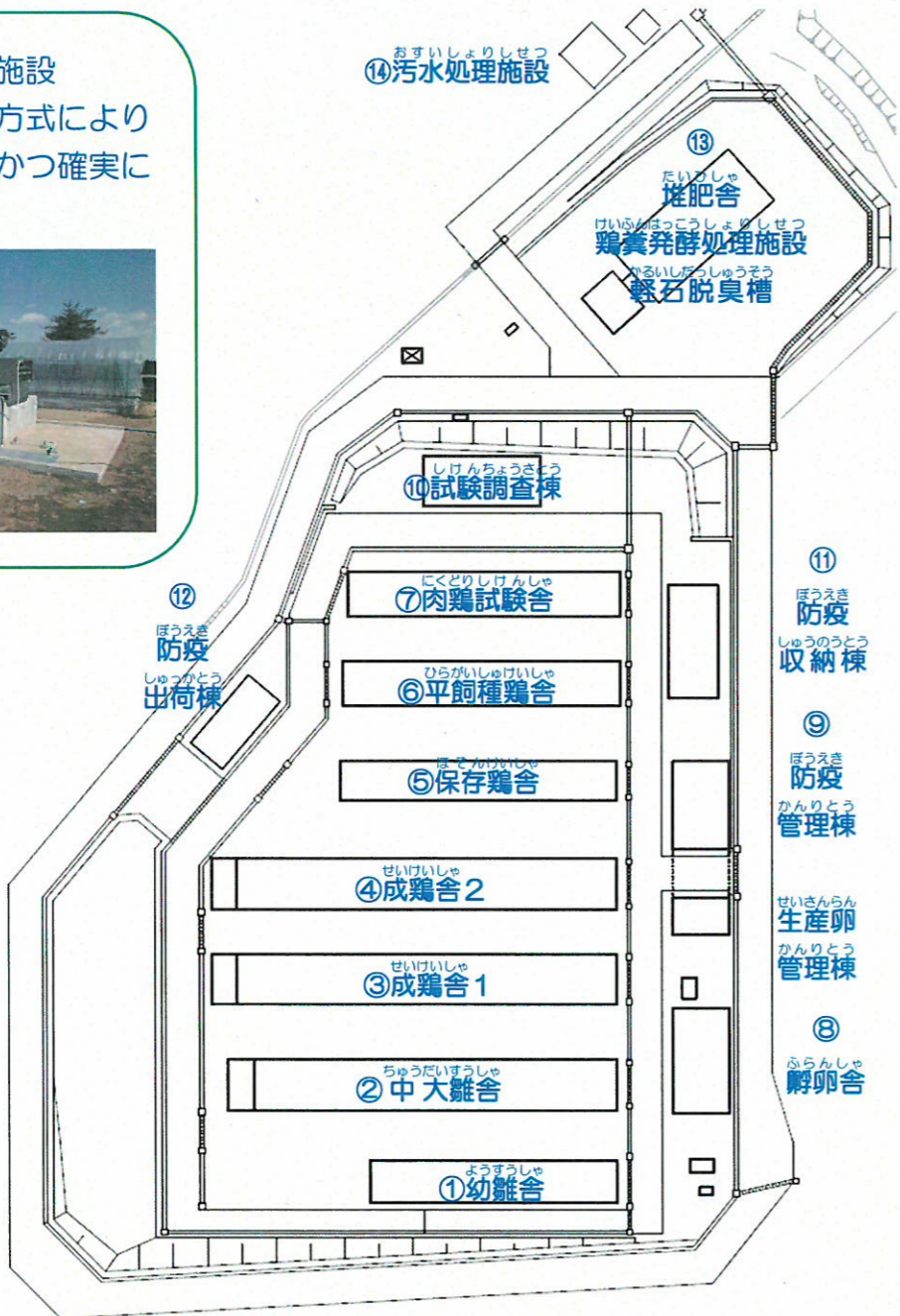
⑥ 平飼種鶏舎  
【0~140日齢】  
出荷用の種鶏を  
飼養します。



① 幼雛舎  
【0~35日齢】  
産まれたての雛はこの  
バタリーブリーダーという  
保育器の中で育ちます。



⑭ 污水处理施設  
回分式活性汚泥方式により  
汚水を低コストかつ確実に  
清浄化します。

② 中大雛舎  
【36~125日齢】  
③、④ 成鶏舎  
【126~約450日齢】  
成長した後、種卵  
(孵化が可能な卵)  
の生産を行います。



⑬ 鶏糞発酵処理施設、  
軽石脱臭槽、堆肥舎  
鶏糞が発酵すると主にアンモニアが  
発生します。そこで、密閉縦型発酵処理  
装置で発酵させ、臭気は軽石が約20㎡  
入った脱臭槽に送ります。上部から散水  
することでアンモニアは水に溶解、また、  
軽石中の硝化菌がアンモニアを吸収する  
ことで臭気を抑えます。

